

26L-am02

進行・再発大腸癌への FOLFOX 療法と FOLFOX+bevacizumab 療法の有効性および有害事象の比較に関する研究

○内藤 俊¹, 齋藤 由美子², 常田 愛子², 川野 千尋^{1,2}, 平山 武司^{1,2}, 黒山 政一^{1,2} (¹北里大院薬, ²北里大東病院薬)

【目的】進行・再発大腸癌患者への bevacizumab (Bv) 併用抗癌剤治療により、生存期間の延長が報告されている。そこで Bv の有用性について、FOLFOX+Bv 療法と FOLFOX 療法の施行患者における有効性と有害事象を検討した。【方法】北里大学東病院において FOLFOX+Bv 療法を施行した 49 例、FOLFOX 療法を施行した 73 例を対象とした。有効性は治療成功期間 (TTF)、全生存期間 (OS) を kaplan-meier 法により算出し、Log-rank 検定により比較した。有害事象は血液毒性として WBC・NEUT・Hb・PLT 減少、自覚症状として悪心、嘔吐、口内炎、倦怠感、その他関連の否定できない有害事象を診療記録より調査した。【結果】患者背景は FOLFOX+Bv 療法群で 65 歳以上、原発巣有りの割合が有意に高かった。TTF は FOLFOX+Bv 療法群で中央値が約 2 ヶ月間延長したが有意差は認められなかった。1 年生存率は FOLFOX+Bv 療法群が 78.2%、FOLFOX 療法群が 52.4% と FOLFOX+Bv 療法群で良好であり、OS も延長される傾向が示された。有害事象に関しては、FOLFOX+Bv 療法群で降圧薬が必要となった高血圧が 6 例に、高血圧の既往があり Bv 使用開始以前より降圧薬を服用していた 8 例中 4 例に降圧薬の変更・増量が必要となった。その他、Bv と関連の否定できない有害事象として、ポート造設後の静脈血栓症、Grade3 の出血、消化管穿孔疑いの膿瘍が各 1 例認められた。WBC・NEUT・Hb・PLT 減少、悪心、嘔吐、口内炎、倦怠感の Grade1 以上の発現はそれぞれ FOLFOX+Bv 療法群で 72.0・74.0・44.0・52.0、57.5、12.5、42.5、67.5%、FOLFOX 療法群で 81.4・81.2・61.4・64.3、58.3、22.2、31.5、84.7% に認められた。【考察】Bv 併用抗癌剤治療は bevacizumab に特徴的な高血圧、静脈血栓症、出血などに対し注意を要するが、TTF および OS が延長することが示唆され、有用な治療法であると考えられた。